

ちばセンセイの健康ワンポイントアドバイス

今年は桜が咲くのも早かったですね。まだ朝晩は冷えますが、ようやく夏の背中が見えたような気がします。

当クリニックを受診して、診察を受けたことがある方は気づかれていますと思いますが、私は背中音を聴くときに、患者さんの椅子を回すのではなく、私自身が立ち上がって患者さんの後ろに立って聴診器を当てています。「わざわざ先生が立ち上がらなくても良いですよ」とおっしゃっていただくこともあるのですが、実は患者さんのために立ち上がっているのではなく、私自身の健康のために立ち上がっているのです。一日いっぱい椅子に座りっぱなしはよくありません。ちょっとした時間を見つけて体を動かすことは大切なことです。

さて今回もピロリ菌の話です。ピロリ菌はなかなか治らない胃潰瘍や胃癌の原因になると考えられています。ただピロリ菌がいても治りやすい胃潰瘍の方もいますし、ピロリ菌がいるから必ず胃癌ができるということでもありません。

いろいろな報告がありますが、ピロリ菌に感染していると、8%ぐらいの方に胃癌が発生するという報告があります。ですから、ピロリ菌に感染しても胃癌にならない人の方が11倍以上いるということになります。胃癌にならない人の方が多いとは言えるのですが、8%という数値をどのように考えるかは人それぞれです。数値は高くないにしても、病気が「癌」なのだから、胃癌にはなりたくないと思えるのは当然のことです。であれば、ピロリ菌に感染しているのなら、除菌したいと思えるのも、当然のことです。

しかし残念ながら、ピロリ菌の除菌をしたから胃癌にならないとはまだ証明されていないのです。早期胃癌で治療を受けた人で、ピロリ菌に感染している人の場合は、除菌することで胃癌の再発を1/3に抑えることができるという報告があります。でも胃癌を発症したことがない人に対して、除菌することでどのぐらいの確率で発症を抑えることができるのかという報告はまだありません。

数年前に子宮頸癌予防のワクチンが行われるようになりましたが、副作用が大きな問題になりました。ピロリ菌の除菌についても同じようなことが起こらないとも言えないので、まだどうすべきかは結論が出ていないのです。